MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２４．５．３０　発行元
第 578 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

森見登美彦『シャーロック・ホームズの凱旋』

１月に中央公論新社から森見登美彦の『シャーロック・ホームズの凱旋』が出た。書店の平台で見つけてから買おうか買うまいかしばらく迷った。「面白そうに見えるのだ…」その実力がよくわからなかったので…。

『シャーロック・ホームズ』本として

文庫本だったなら迷いなく買ったと思う。常連作家でない人の単行本なんてめったに買わないので迷った。そもそも森見登美彦という作家はミステリを書く人だと認識していなかった。「でも、突然ミステリに挑戦して傑作を仕上げる人も中にはいるから…」と思い直した結果、購入した。

ポイントはシャーロック・ホームズ本だということ。パスティーシュ(贋作)にしろパロディにしろ興味を引かれることは間違いない。ということで、読んでみた結果は…。

ヴィクトリア朝京都が舞台

設定そのものが特殊。ホームズ、ワトソンが生活しているのがヴィクトリア朝の京都。現実の世界でイギリスのヴィクトリア女王の在位は１９０１年まで。でも、本書の中では１９１０年からの嵐山電鉄や蒸気機関車なども登場してくるし、レンガ作りの京都タワーも出てきて、時代の設定は非常に曖昧。

ホームズ、ワトソンという人物設定を使ってはいるものの、ホームズは「スランプ」に陥って活動がまったくできない状態。日々悶々としている描写が続く。上階に越してくるモリアーティ教授もまた研究に見切りをつけ生きることにあきらめ感が漂う状態。事件の捜査なんてとてもとても不可能…。

「じゃぁ何を書こうとしているんだ」という思いが前半を読んでいる時に常に付き纏う。

ミステリ要素は極めて薄い

元々ミステリ出身の作家ではないので(ミステリは読んでいるだろうけれども)、「ミステリ」を書こうという意識は薄い気がする。「謎」の設定がないし、「論理的な思考・推理」の積み重ねなどはない。ひたすら、ホームズ譚のキャラクターを使っての行動面でのドタバタ騒動を繋いでいく感じ。

ホームズ、ワトソン、ハドソン夫人、ワトソンの妻のメアリ、モリアーティ教授、アイリーン・アドラーと馴染みの人物たちが登場。パロディ風に思える部分もあるけれども、本物のホームズ物のイメージとはかなり異なる別個の人物とも受け取れる。こういう独自の世界を書きたかったのだろうなぁと思う。

途中から１２年前に起きたレイチェル・マスグレーヴ嬢の失踪事件がメインの「謎」になっていくが、これに論理的な解釈がつくわけではない。というわけで、ホームズの登場する「まったくミステリではない」物語という具合。

著名な作品を使うということ…

著作権がどのように関わるかは私にはわからない部分があるが、著名な作品を土台に使う場合は贋作かパロディであってほしい。元になっている作品への「愛着」が感じられるような…。そう思うのは私だけなのだろうか。

『シャーロック・ホームズ』の時代

コナン・ドイルによって書かれた『シャーロック・ホームズ』の物語。１８８７年の『緋色の研究』がスタートで、１９２７年まで続いた。長編４編、短編５６編、計６０編が残されている。イギリスの月刊小説誌『ストランド・マガジン』に連載。

松岡圭祐『新人作家・杉浦李奈の推論XI・誰が書いたかシャーロック』

１月に角川文庫から出た本。シリーズ１１冊目に当たる。ちょうどシャーロック・ホームズがテーマなので上記の『シャーロック・ホームズの凱旋』に合わせて載せてみた。本書の途中にも出てくるように「聖書の次に売れた本」ということで、ホームズの冒険譚は世界でのベストセラー本である。

前作までのシリーズの流れで、杉浦李奈は純文学作品『十六夜月』でベストセラー作家の仲間入り。本書冒頭、続いて書いた『ニュクスの子供たち、そして私』が直木賞候補に上がる場面から始まる。KADOKAWA ビルへ優佳と一緒に向かった二人は玄関前でイギリス大使館のロールスロイスに強制的に乗せられてしまう。そして依頼されたのがシャーロック・ホームズの『バスカヴィル家の犬』の盗作問題。『バスカヴィル家の犬』の初版本の謝辞に「親愛なるロビンソン君、きみが語ってくれたイングランド西部の伝説に着想を得られたこと…」とに関連している。大使館にいたマクラグレン教授が示したのは１９０１年頃の執筆とみられるフレッチャー・ロビンソンのサイン入れのタイプ原稿。世界各国の探偵にこの原稿の真贋を見分けるよう依頼しているという。日本では李奈に頼むという。英語文の分析に自信のない李奈は断ろうとするのだが…。今回は犯罪事件は起きないのか？と思ったが、東京に巨大犬が登場して…。さて、盗作問題は…どんな結末を。